

ベストプラクティス賞(2013年)

ベストプラクティス賞審査委員会 委員長 矢野 真

最優秀賞

野田 邦子

埼玉協同病院 診療情報室

パートナーシップを高める「マイかるて」(患者閲覧用電子カルテ)の取り組み

【選定理由】患者参画の取り組みは大変重要であるが、電子カルテの閲覧となると、セキュリティーや個人情報の問題が立ちはだかり、不都合を主張する反対意見も多くあがったのではないだろうか。そのような問題を一つ一つ解決し、大切な目的を具体的に実現させたことが評価された。

優秀賞

斉藤 日出雄

みまき福祉会 デイサービスセンターきたみまき

QMS 活動を通じた介護現場におけるリスクマネジメント

【選定理由】一部の医療施設ではすでに取り組まれていることではあるが、医療施設と比較して、必ずしも資源が十分でない介護の分野において、業務を可視化し改善に生かす QMS 活動に取り組まれたことは、その他の介護施設にとっても新たな道を開いたと思われる。

優秀賞

東村 享治

京都大学医学部附属病院 放射線部

新しい医療安全教育法= 成功事例を生かした振り返り教育法の実践

【選定理由】日常業務の中でデブリーフィングを行い、新人技師とクリニカルコーチ技師との間で行う教育法はOJTの新しい形である一方、他施設でも導入可能なモデルとして有用性も高いと評価された。

特別賞

永井 智恵美

栃木県立がんセンター 医療安全管理室

医療安全推進週間企画

全職員参加の「医療安全百人一首 TCC ver.」

- ハイハイと 返事をしている患者さん 実は名前がちがってたあ -

【選定理由】いろはがるたや標語カレンダーなどの取り組みは一部の施設ですで行われて

いるが、「百人一首」の名が表すように職員全員参加という点で優れた取り組みであり、寄せられた和歌の内容の分析もされ、また、患者と共有することで患者を含めた全員参加の意識が感じられた。

